

報道関係各位

2019年6月10日

株式会社川島織物セルコン

**「カルティエ、時の結晶」展で表現する
“最も新しい伝統技術”**

会 場: 国立新美術館 企画展示室 2E (東京・六本木)
会 期: 2019年10月2日(水)~12月16日(月)

株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：山口 進）は、2019年10月2日より国立新美術館で開催の「カルティエ、時の結晶」展に協力、新たに開発したファブリックを提供します。

展覧会概要

展覧会名：カルティエ、時の結晶

会 期：2019年10月2日（水）～12月16日（月）

休 館 日：毎週火曜日

[ただし10月22日（火・祝）は開館、10月23日（水）は休館]

開館時間：10:00～18:00（毎週金・土曜日は20:00まで） ※入場は閉館の30分前まで

会 場：国立新美術館 企画展示室 2E

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

<http://www.nact.jp>

主 催：国立新美術館、日本経済新聞社

特別協力：カルティエ

後 援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

協 賛：大成建設、山元

協 力：川島織物セルコン、宇都宮市／大谷石材協同組合、ザ・ユージーン・スタジオ

会場構成：新素材研究所

展覧会ホームページ：<https://Cartier2019.exhn.jp/>

「カルティエ、時の結晶」展で表現する“最も新しい伝統技術”

株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：山口進）は、天保14（1843）年創業の、京都・西陣を発祥とする織物メーカーです。伝統技術と先端技術を併せ持ち、現在は帯・緞帳などの伝統的な織物からインテリアファブリック、小物までをトータルに手掛けています。また、しょうそういんほうもつせんしよくひん正倉院宝物染織品の復元にも携わるなど、日本の織物の歴史を支えてきました。

このたび当社は「カルティエ、時の結晶」展の会場デザインを担当する新素材研究所から「鉱石が眠る深い地底にわずかな光が差し込むようなイメージ」をファブリックで表現したいという構想を受け、当社にゆかりのある伝統技術のひとつ、「羅」にインスパイアされた新しいファブリックの開発をしました。

当社がファブリックを提供する「プロログ」では、天井高8mの高さからやわらかな光がジュエリーに伝わるような空間表現を実現するため、“暗闇”と“光の柱”をイメージする2種類のファブリックを開発しました。

“暗闇”の表現には、暗闇の奥行や深さを「羅」の特色でもある透過性で表現、それにきらめきを加えるため、西陣の伝統的な技法であるひきばく引箔の技術を応用しました。また、“光の柱”の表現には、光が透過する繊細な美しさにグラデーションを加えるために、風通織（二重織）の技術を採用し、厚みに変化のあるファブリックを制作しました。



プロログ「時の間」
© N.M.R.L./ Hiroshi Sugimoto +Tomoyuki Sakakida

「羅」と当社のかかわり:

「羅」の歴史は古く、中国の前漢時代（紀元前206年- 紀元後8年）に出土例があるほか、古代中央アンデスでも製織されており、日本に伝わったのは7世紀前後とされています。現在、正倉院に収蔵されているものなど、「羅」は仏や菩薩の装飾や舞楽の衣装などに使用され、高貴で特別な織物でしたが、15世紀ころになると、その織り方や組織の複雑のために日本での技術継承が一度途絶えてしまいました。現在、織られている「羅」は1925年に当社社員が製作方法を研究し、復興させたものです。

株式会社川島織物セルコン マーケティング部広報グループ

TEL: 075-741-4316 mail: kouho@kawashimaseikon.co.jp